会　議　議　事　録

1　会議名	令和８年度　長岡市栃尾美術館協議会
2　開催日時	令和８年８月 27 日（木曜日）　13 時 30 分から 15 時まで
3　開催場所	長岡市栃尾美術館　１階アトリエ
4　出席者名	（委　員）７名 境野 委員、星野（正） 委員、新澤 委員、安藤 委員 星野（素） 委員、渡辺 委員、大野 委員 （事務局）６名 江田教育部長、入澤中央図書館長、野村中央図書館長補佐 諏佐栃尾美術館長、坂井主査、酒井会計年度任用職員（学芸員）
5　欠席者名	有本委員
6　議題	（１）報告事項 ① 令和７年度事業報告について ② 令和８年度事業実施状況について （２）協議事項 令和９年度事業計画（案）について
7　審議結果の概要	議題（１）について 報告事項について説明があった。 議題（２）について 事務局提案のとおり決定した。
8　審議の内容	
事務局	議題（１） ① 令和７年度事業報告について （資料１により説明） 主な意見・質問は次のとおり
委員	竹細工講座は地域資源を活用した意義のある企画であり、非常に好評であった。定員が少なく参加できない希望者もいたため、継続や実施方法の工夫を検討してほしい。
事務局	制作の難易度が高く、講師１名とアシスタントによる指導では５名程度が適正であった。今後は、子供たちも参加できるより簡単な内容、制作実演、講師体制等を含めて検討する。
委員	竹細工の制作は難しいものの、大人が竹細工を制作する様子を子どもたちが見学することで地域住民との交流を図るとともに、地域の伝統文化の継承につながる場としてほしい。
委員	小学生が主体的に参加するには難しい。竹を編むのではなく、子どもが竹

	に触れ、素材の質感や地域文化を体験する機会として企画することにも価値がある。地域の素材に触れたり、制作過程を体験したりする企画は、子どもの造形感覚や感受性を育てる上でも重要である。 竹鉄砲など、年齢に応じた内容も考えられる。
委員	保育園児等が美術館で制作活動を経験することには意義があるため、今後も子どもが美術館に親しむ取組を続けてほしい。
委員	夏休みなどの長期休暇期間を活用し、子どもを対象とした企画や絵本展の開催を検討してほしい。
事務局	地域の素材や文化を取り入れ、子どもから大人まで参加できる企画を検討していく。
事務局	② 令和８年度事業実施状況について （資料２により説明） 主な意見・質問は次のとおり
委員	Instagram 等の SNS は、情報発信だけでなく、他の市施設や地域団体を積極的にフォローすることにより、情報の広がりが期待できる。新聞掲載は時期が遅れる場合もあるため、SNS による即時発信が重要である。
事務局	Instagram の運用を始めているが、フォロワーの増加が課題である。他施設等とのつながりも意識し、発信方法を工夫する。
委員	スタンプラリーは４施設を巡る企画であったが、道院高原の実施期間がお盆期間に限られていたため、全てのスタンプを集めることができなかったが、各施設において虫に関する展示会が実施されており、施設間の連携による企画として楽しむことができた。
委員	蝶の展覧会は、子どもたちが自然の美しさを通して色彩感覚を学ぶことのできる良い取組である。また、子ども向けの展示やイベントが充実しており、家族で来館するきっかけとなっている。夏休み期間中に子どもが参加しやすい企画を実施することは有効である。
委員	撮影可能な展示は、来館者自身の SNS 投稿による広報効果が期待できる。一方、今回の蝶展のように作品の権利関係により撮影できない場合もあるため、撮影スポット等を工夫すると良い。
事務局	（2）協議事項 令和９年度事業計画（案）について

	（資料３により説明） 主な意見・質問は次のとおり
会長	LED 化工事の時期及び休館範囲は、いつ頃確定するのか。
事務局	業者決定後に詳細な工程が定まる。現時点では、11 月に一部工事、1 月から 3 月まで全館休館として工事を行う想定である。展示室だけでなくバックヤードを含む全館を LED 化する予定である。
会長	中央図書館等との他施設との連携による選抜展とはどのような内容をイメージしているか。
事務局	中央図書館には美術資料が豊富に保管されており、特に版画のコレクションが充実している。過去には大規模な展覧会も開催されたが、近年は一部を除き公開の機会が限られているため、栃尾美術館で借用・展示することも考えられる。これらの作品は中央図書館開館時に多数収集されたものであり、まとまった数があることから、一つの展覧会として十分に構成できる。
事務局	市が保有する作品や資料を有効活用し、展示方法を工夫することで、市民が新たな魅力や価値を再発見する機会となる。特に中央図書館が所蔵する版画等のまとまったコレクションは、栃尾美術館で紹介する意義がある。関係職員及び学芸員で相談し、他施設との連携による展示を検討する。
委員	栃尾地域に伝わる竹細工、和紙、型菓子、織物等は、作り手や技術の継承者が減少している。地域の生活文化や手仕事を記録し、次世代へつなぐ視点を事業に取り入れてほしい。
委員	市内施設の所蔵品を活用した展示は、経費を抑えながら市民に新たな魅力を伝える方法として有効である。
会長	地元に根ざしたテーマを掘り起こした展示や事業も有効である。
委員	夏期の来館を促すため、週末に限って開館時間を延長することや、地域イベントとのスタンプラリー等の連携も考えられる。
事務局	夜間開館は過去に実施したが、展覧会によって利用ニーズに差があった。企画内容、来館見込み及び職員体制を踏まえて検討する。
会長	美術館には企画展の開催に加え、普及事業についても積極的に取り組んでいくことが求められると感じる。写真関連の事業や、大人も参加できるワ

	ークショップなどを実施し、普及事業に特色を持たせることも有効である。
事務局	（3）その他 主な意見・質問は次のとおり
委員	飲食できる場所が少ないため、来館者が休憩できる場として、企画に応じた呈茶、キッチンカー等との連携も考えられる。
事務局	来館者が見込める催事で、事業者から申出がある場合は、必要な許可や実施条件を整理した上で相談に応じたい。
委員	「とちびまつり」は今後実施する予定はあるか。
事務局	事業の規模拡大に伴い、予算措置の方法について見直しが必要な状況となっている。事業そのものを取りやめるということではなく、今後も継続して実施できるよう、実施手法等を検討していきたい。
会長	これまでの「とちびまつり」は、多くの講師や地域で活動する作家とのネットワークを構築する貴重な機会となっていた。また、そのつながりを活かして普及事業における講座の講師を依頼したり、普及事業の企画につなげたりすることもできる。開催方法に変更が生じる場合であっても、関係者とのネットワークや講座等の取組については継続していくことが望ましい。
事務局	従来規模での実施には予算上の課題があるが、講師とのつながりを生かした単発講座等は継続し、今後のとちびまつり実施についても検討していきたい。
会長	以上で本日の議事をすべて終了する。
事務局	令和８年度長岡市栃尾美術館協議会を終了。
９　会議資料	別添のとおり